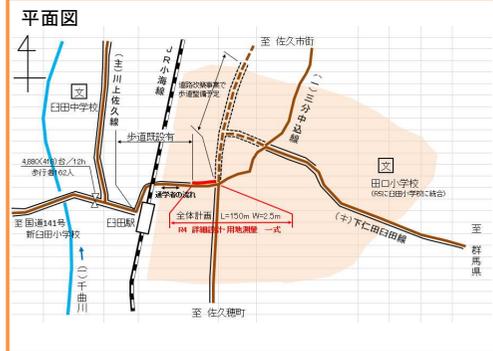
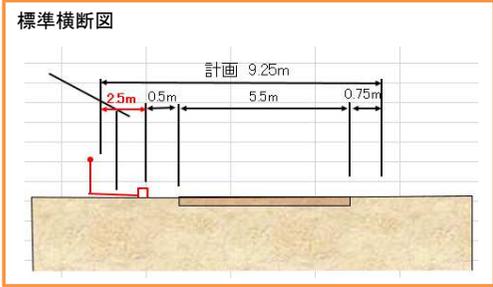


(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	県単交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)川上佐久線		
事業毎の通番	1	市町村名	佐久市	箇所名(ふりがな)	三分(みぶん)	
事業概要	事業目的	本路線は佐久市南部の三分地区と中込地区を結ぶ地域路線で、主要地方道及び市道とのネットワークによって南佐久郡と軽井沢方面を結ぶ佐久地域の千曲川右岸の補助幹線道路となっており、沿線周辺に離山南工業団地や龍岡城跡等が立地しています。付近には小、中学校があるが歩道が未整備であるため、歩道の設置により歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保したい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	佐久市都市計画区域マスタープラン				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	田口小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:5,758台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:286台・人/12h				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	4年間		
	完成年度(見込み)	2025年度(R7)	費用対効果	-	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=150m W=5.5(9.25)m		30,000	国庫	その他 県債 一般財源
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される			
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制			
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:286台・人/12h ○目的地からの距離:田口小学校L=950m			評価 A
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 3-8-4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 田口小学校			評価 A	
効率性		○事業期間4年(R4~R7)			評価 A	
緊急性		○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 3件以上 ○現況の歩道幅員:歩道無し			評価 A	
		計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)			評価 A
所管課の意見		小学生の通学路であり、佐久市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況 ○	総合評価 A
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

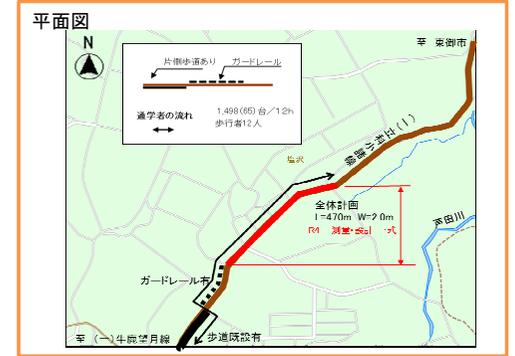
事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	 		
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	 		
	事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は佐久市南部の三分地区と中込地区を結ぶ地域路線ですが、主要地方道及び市道とのネットワークによって南佐久郡と軽井沢方面を結ぶ佐久地域の千曲川右岸の補助幹線道路となっており、沿線周辺に離山南工業団地や龍岡城跡等が立地しています。当該区間は、歩道未整備であり、一般交通を阻害しています。	
		② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小、中学校があることから、児童生徒の登下校の安全確保が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。	
		③ 事業説明等の経緯	R3通学路合同点検時に、事業の計画や予定を説明	
		④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	佐久市通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」	
		⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
		⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
		⑦ その他	特になし	
	事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 11'43.6" 東経:E 138° 29'29.0"

(様式1-2)新規評価シート

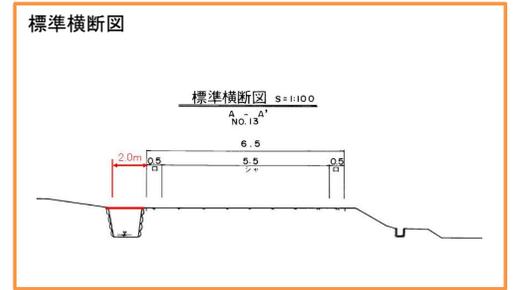
建設部 道路管理課

事業名		県単交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)立科小諸線		
事業毎の通番		2	市町村名	立科町	箇所名(ふりがな)	塩沢(しおざわ)	
事業概要	事業目的	本路線は立科町と小諸市を結ぶ地域路線である。当該箇所は立科小学校の通学路であり側は歩道整備されているが、当該箇所は未整備のため整備を行うものである。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4 いちのを守り育む県づくり		事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」					
	保安対象・範囲 受益対象・範囲	立科小学校、立科中学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:1,783台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:12台・人/12h					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	3年間	事業費(千円)		
	完成年度(見込み)	2024年度(R6)	費用対効果	-	財源内訳(千円)		
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=470m W=5.5(8.5)m			100,000		100,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:12台・人/12h ○目的地からの距離:立科小学校L=2300m				評価
				C			
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 3-8-4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路の指定:田口小学校				評価	
						A	
効率性		○事業期間3年(R4~R6)				評価	
						A	
緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 2件以上 ○現況の歩道幅員:歩道無し				評価		
					A		
計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている				評価		
	○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				A		
所管課の意見	小学生の通学路であり、立科町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図、構造図等】



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業概要説明図表

事業周辺環境

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は立科町から東御市を経由し小諸市を結ぶ地域路線であり、周辺には、立科小学校および立科中学校が立地しています。当該区間は、歩道未整備であり、一般交通を阻害しています。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小、中学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。
③ 事業説明等の経緯	R3.7.27 令和3年度通学路合同点検実施 → 方針や予定を説明
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」 立科町通学路安全プログラム
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦ その他	特になし
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 17'13.5" 東経:E 138° 19'52.6"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		県単交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)草越豊昇佐久線			
事業毎の通番		3	市町村名	佐久市	箇所名(ふりがな)	横根(よこね)		
事業概要	事業目的	本路線は佐久市市街地と御代田町を結ぶ地域路線であり、朝夕の通勤時間帯を含め交通量が非常に多い。また、当該箇所は下り坂の直線道路となっておりスピードを出す車が多い。付近には小、中学校があるが歩道が未整備であるため、歩道の設置により歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保したい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4 いちのを守り育む県づくり		事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	佐久市都市計画区域マスタープラン						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	平根小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:10,812台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:95台・人/12h						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2025年度(R7)	費用対効果	-	国庫	其他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=400m W=5.5(8.75)m			130,000			130,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:95台・人/12h ○目的地からの距離:平根小学校L=550m					評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 3-8-4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 田口小学校					評価	A
効率性		○事業期間4年(R4~R7)					評価	A
緊急性		○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 2件以上 ○現況の歩道幅員:歩道無し					評価	A
計画熟度		○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている					評価	A
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)						
所管課の意見	小学生の通学路であり、佐久市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	○	総合評価	A
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。							
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】			
	【整備の必要性がわかる状況写真等】			
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は佐久市市街地と御代田町を結ぶ地域路線であり、朝夕の通勤時間帯を含め交通量が非常に多い、また、当該箇所は下り坂の直線道路となっておりスピードを出す車が多い。付近には小、中学校があるが歩道未整備であり、一般交通を阻害しています。		
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小、中学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。		
	③ 事業説明等の経緯	R3 通学路安全プログラムにて要望される。		
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」佐久市通学路案プログラム		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。		
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
	⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 17'20.7" 東経:E 138° 30'07.7"	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業			路河川名等	主要地方道 小諸軽井沢線				
事業毎の通番	4	市町村名	小諸市	箇所名(ふりがな)	柏木(かしわざ)				
事業概要	事業目的	当路線は、上田地域と佐久地域を結ぶ重要な幹線道路であり、また、避暑地軽井沢へのアクセス道路として利用され、日交通量は1万6千台を超え、大型車の混入率(16%)も高い。 一方で、当路線は風光明媚な観光路線として、沿道のサイクリングを楽しむ利用者も多いが、当該区間は通行帯などが整備されておらず、車両との接触事故などが度々発生している。 このため、当事業において路肩を拡幅整備し、自転車等の通行空間の確保を図るものである。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律				
	関連する事業、計画等	小諸市都市計画マスタープラン 小諸市地域防災計画							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	自転車利用者ほか 現況自動車交通量:12,608台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:161台・人/12h(自転車通学生徒)							
	着手年度	2022年度(令和4年)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2028年度(令和8年)	費用対効果	—	国庫	其他	県債	一般財源	
	全体事業内容(主な工種)	路肩整備工 L=650m W=6.5(10.0)m			150,000			150,000	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	自転車等の通行空間を確保することにより、対自動車の交通事故の減少が期待される						
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制						
	評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量:6人/12h ○目的地からの距離(500m未満、チャイルドハウスやまびこ(200m)(保育所) 小諸高等学校(1600m) みずす幼稚園(1800m)					評価	B
重要性		○関連計画、重点施策との整合:小諸市都市計画マスタープラン、小諸市地域防災計画、小諸市緊急輸送路線 ○通学路等の指定(通学路交通安全プログラム)に位置付けられている:東小学校2-⑩ サンライン 浅間ラーメン道					評価	A	
効率性		○事業期間:4年間(R4~R8)					評価	A	
緊急性		○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 3件以上 ○現況の歩道幅員:未整備					評価	A	
計画熟度		○事業情報の共有:計画策定の進捗に併せて、事業情報の共有を図っていく予定						評価	B
		○地域の取り組み:協力的である(県民ホットライン(R3.10.16) 整備要望 ○地域の合意形成:合意形成が図られている(事業用地を概ね確保済、地域の合意形成を図っていく予定 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:道路付帯施設の整備7-1							
所管課の意見	近年のサイクリング人口増加により、自転車と自動車の事故が発生しているため、早期に自転車走行空間(路肩増築)を整備し、安全を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。					採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手				

事業概要説明図表	位置図		
	状況写真		
事業周辺環境	平面図		
	標準横断面		
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、上田地域と佐久地域を結ぶ重要な幹線道路であり、また、避暑地軽井沢へのアクセス道路として利用され、日交通量は1万6千台を超え、大型車の混入率(16%)も高い。一方で、当路線は風光明媚な観光路線として、沿道のサイクリングを楽しむ利用者も多いが、当該区間は通行帯などが整備されておらず、車両との接触事故などが度々発生している。このため、当事業において路肩を拡幅整備し、自転車等の通行空間の確保を図るものである。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・県民ホットライン(R3.10.16) 整備要望	
	③事業説明等の経緯	・	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	小諸市都市計画マスタープラン 小諸市地域防災計画	
	⑤地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、路肩の拡幅事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、路肩を整備することにより自転車通行の安全が確保され、地域観光等への好影響が期待できる。	
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	路肩の整備により安全で安心な自転車通行空間が整備され、魅力ある地域の創出により地域活性化が期待できる。		
⑦その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早急な事業の完了に務めること。		事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 20'21.4" 東経:E 138° 27'07.7"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	県単交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)松代篠ノ井線		
事業毎の通番	5	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	南警察署西交差点(みなみけいさつしよにしようさてん)	
事業概要	事業目的	当路線は、長野市南部の市街地を東西を結ぶ道路である。この箇所は、国道19号との交点に位置するが右折レーンが特例値であり、右折待ちの車両により、見通しが悪く、渋滞が発生している。近隣には篠ノ井中学校や通明小学校があり、朝夕の通勤車両と通学する児童等が錯綜し、大変危険な状況にある。安全な交通の確保のため、道路改良が必要である。安全確保を図りたい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	通明小学校、篠ノ井中学校 通学者、篠ノ井方面 通勤者他 地元住民 現況自動車交通量:3,003台/12h(H27実測値)、現況自転車歩行者交通量:371台・人/12h(H27推定値)				
	着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	2023年度(令和5年度)	費用対効果	—	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	交差点改良工 L=50.0m		20,000		20,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故の減少が期待される。 歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される。			
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制			
	評価の視点	必要性	○現況交通量:7,253台/日 ○現況自転車歩行者交通量:742人/日			評価 A
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 3-8.4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○緊急輸送道路の路線指定:第一次(国道18号との交差点)			評価 A	
効率性		○事業期間:2年間(R4~R5)			評価 A	
緊急性		○近年の交通事故件数:2件(聞き取り) ○現況の歩道幅員:2.0m未満			評価 B	
計画熟度		○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:協力的である(長野市及び地元区から要望あり) ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価7-2-5 地元調整)			評価 A	
所管課の意見	右折レーンと直左のレーンの整備により、安全安心な交差交通を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

位置図		
事業概要説明図表		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、長野市南部の市街地を東西を結ぶ道路である。この箇所は、国道19号との交点に位置するが右折レーンが特例値であり、右折待ちの車両により、見通しが悪く、渋滞が発生している。近隣には篠ノ井中学校や通明小学校があり、朝夕の通勤車両と通学する児童等が錯綜し、大変危険な状況にある。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小、中学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、地元区から歩行者の安全な歩行空間の確保、慢性的な渋滞の解消を要望されている。
	③ 事業説明等の経緯	事業に伴う用地買収不要。歩道の付け替え、区画線の引き直しで改良を実施。国道事務所や警察等の関係者へは協議説明済み。
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、交差点の改良事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、改良整備することにより円滑な交通と歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	当該整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	計画段階で地元に対して丁寧な説明を行うことで、工事中の規制方法について理解を得るよう努める。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 34' 30.9" 東経:E 138° 09' 20.2"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		県単交通安全施設等整備事業		路河川名等		(一)大豆島東和田線		
事業毎の通番		6	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)		大豆島小学校前(まめじましようがっこうまえ)	
事業概要	事業目的	本路線は、長野市の大豆島地区から吉田地区(国道18号)へ至る生活道路である。また、当該箇所は長野市大豆島小学校の通学路に指定されており、小学生をはじめ多くの歩行者が通行しているが、歩道がなく、道路幅員も狭隘であることから、歩行者が危険にさらされている。歩行者の安全性向上を図るため、早急な歩道整備が必要である。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4 生命・生活リスクの軽減(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	H24緊急合同点検						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	大豆島小学校 通学者 他 現況自動車交通量: 5,588台/12h、現況交通量(歩行者)466人/12h、現況交通量(自転車)0人/12h						
	着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	—		国庫	その他	県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=320m			200,000			200,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される						
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制						
評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量: 466人/日 ○目的地からの距離: 大豆島小学校L=10m					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合: しあわせ信州創造プラン2.0 3-8.4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路の指定: 通学路安全プログラム(R3合同点検) 大豆島小学校					評価	A
	効率性	○事業期間: 5年間(令和4年～令和8年)					評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数: 人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員: 歩道無し					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有: 関係者、地権者を中心に周知 ○地域の取り組み: 地元からの要望 ○地域の合意形成: 事業目的について合意 ○事後・再評価からのフィードバック: 同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)					評価	B
	所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要がある、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価	A
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	位置図	平面図	
	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
事業周辺環境	状況写真	構造図、完成予想図等	
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は大豆島小学校の通学路となっているが、歩道がなく、道路幅員も狭隘であることから、児童が危険に晒されている。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本路線は、地元からの歩道設置の要望が非常に強い。	
	③事業説明等の経緯	R3合同点検時に方針や予定等を説明。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」長野市通学路安全プログラム	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
	⑦その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 36° 37' 52" 東経: E 138° 13' 41"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		県単交通安全施設等整備		路河川名等		(主)飯山野沢温泉線			
事業毎の通番		7	市町村名	野沢温泉村	箇所名(ふりがな)		中尾(なかお)		
事業概要	事業目的	当路線は、飯山市から野沢温泉村を結ぶ幹線道路であるとともに、地域住民にとっての生活道路としての役割も果たしている。また、沿線の小菅神社や北竜湖、スキー場等の利用者の通行も多い。沿線には野沢温泉中学校や野沢温泉小学校があるが、当該区間は歩道が整備が十分ではなく、歩行者は危険な状態であることから、歩道整備を行って歩行者の安全を確保したい。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等		交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	野沢温泉小学校、野沢温泉中学校 通学者、地元住民 現況自動車交通量:2,836台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:46人/12h(H27センサス)							
	着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	-		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工(片側) L=710m W=2.0m			300,000	-	-	-	300,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される						
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制						
	評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量:46人/日(H27センサス) ○目的地からの距離:500m未満(野沢温泉小学校0.4km)					評価	A
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 3-8.4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路の指定:通学路指定 野沢温泉小学校					評価	A	
効率性		○事業期間:5年間(R4~R8)					評価	A	
緊急性		○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 1件(H28) ○現況の歩道幅員:設置なし					評価	A	
計画熟度		○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:野沢温泉村役場を通じて地元より要望有り ○地域の合意形成:事業について合意形成が図られている(役場を通じて地元より要望有り) ○再評価・事後評価からのフィードバック:同種事業の結果を参考(事後評価7-6-5地元調整)					評価	A	
所管課の意見	小学生の通学路であり、野沢温泉村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要がある、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価			
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手				

事業概要説明図表	位置図		
	状況写真		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は、野沢温泉小学校、野沢温泉中学校の通学路であり、バス停への歩行者も多いが、歩道がなく危険な状況。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	野沢温泉村役場を通じて地元から要望があがっている。	
	③事業説明等の経緯	R3通学路合同点検方針や、事業予定等の説明を実施。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	小諸市都市計画マスタープラン 小諸市立地適正化計画 しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」	
	⑤地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
	⑦その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。		事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 91' 55" 東経:E 138° 43' 86"